

『タンポポ』

1985年／日本／伊丹十三監督作品

ラーメンの正しい食べ方は…

会員 佐竹 雅 (68期)



「タンポポ」
Blu-ray 発売中
¥4,700 +税
発売・販売元：東宝
©1985 伊丹プロダクション

1 映画の紹介

「タンポポ」は、伊丹十三の脚本・監督の映画で、1985年に公開されました。

あらすじは、亡夫からラーメン屋を引き継いだ店主タンポポ（役：宮本信子）が、タンクローリーの運転手ゴロー（役：山崎努）とガン（役：渡辺謙）の力を借りながら、「行列のできるラーメン屋」を目ざして、売れないラーメン屋を立て直す物語です。

2 映画を見たきっかけ

この映画は、伊丹十三監督の他の映画（「マルサの女」等）とは違って、あまり興行的に成功した作品ではありません。ですが、なぜかアメリカでは人気があるらしく、私に最初にこの映画を勧めてくれたのは、アメリカ人の友人でした。

伊丹十三のエッセイが大好きだった私は、紹介されてすぐにレンタルショップで「タンポポ」を借りてきて、視聴しました。

最初にこの映画を観たのは、もうかれこれ15年以上前になりますが、私は、次のシーンを今の今まで忘れたことはありません。

3 ラーメンの正しい食べ方

『ラーメンの先生』なるご老人がガンに対して、ラーメンの正しい食べ方を伝授してくれるシーンです。

麺を実食するまでの手順をかいつまんでご説明すると、①ラーメンをよく見る→②箸の先で、ラーメンの表面をならす→③箸の先でチャーシューをつまみ、どんぶり右上の位置に、沈ませ加減に安置する。このとき、心の中で詫げるように「あとでね」とつぶやくというものです。

（かいつまむと面白さが全く伝わらないと思うので、ぜひ映画をご覧になっていただきたいです。）

私は、ラーメンを食べるとき、上記①～③の手順を、無意識のうちにもいつも行っていましたので、このシーンを観た時、「よくぞ、この流れを言葉にしてくれました！」と思わず膝を打ったものでした。

それ以来、私は、ラーメンを食べるとき、中でも特に、チャーシューをどんぶりの右上方向に移動させていく際、いつも「タンポポ」のこのシーンを思い出します。

4 印象に残るシーンの説明について

自分の心に残る映画の、印象に残るシーンをこのようにご紹介してしまうと、ネタバレになってしまうのではないかと。まだご覧になっていない方の楽しみを奪ってしまうのではないかと。

そう思って、このシーンについてご紹介することを躊躇していました。しかし、同じく「タンポポ」が好きだという知り合いに聞いたところ、私にとっては意外にも、そんなシーンは全く覚えていないという回答を得ました。

というのも、「タンポポ」には、売れないラーメン屋を立て直すという本筋とは、全く関係のない寸劇シーンが沢山出てきます。「ラーメンの正しい食べ方」のシーンも、実は本筋とは関係のないこの寸劇シーンの1つです。

ですので、たとえこのシーンを知っていても、この映画を初めて観る楽しみが失われることはないと考え、ここにご紹介する次第です。

5 その他

「タンポポ」の寸劇シーンには、食にまつわるシーンが沢山出てきます。ふわふわのオムライスを作るシーンもすぐ食欲がそそられます。

この映画を観ていると食べるのが楽しく感じられます。ご興味あればぜひご覧ください。